

YNUの研究者哲学サロン ～YNUささらサロン～

横浜国立大学 学長
長谷部勇一

2018/02/23

報告内容

1. 「ささら」とは
2. 文理融合の意味
3. 経済学者としての経験から
4. 分野を超えて語り合おう

1. 「ささら」とは

丸山真男『日本の思想』（1961）Ⅲ思想のあり方について

簾（ささら）型

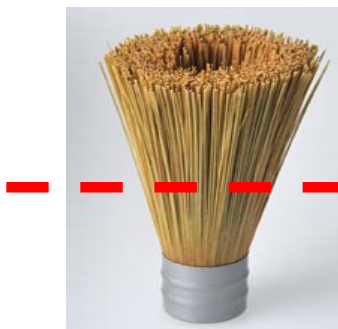


- 19世紀前半まで、学問の知は総合的
社会科学・・・スミス、ヘーゲル、マルクス、ベンサム
- 19世紀後半から、専門化現象が急速に進んだ。
法律、経済、政治、心理 etc
しかし、個別科学の根は共通（ギリシャ、中世、ルネッサンスなど文化的伝統）
→ 19世紀前半までの近代西洋の学問は、ささら型。

参考資料1（YNU21）

1. 「ささら」とは

- 日本の学問の受入
明治維新以後、学問の専門化、個別化が明瞭になった段階で受け入れた。
東京帝国大学(1877年) 法、理、医、文の4学部で創設。



蛸壺型



- 個別専門化(蛸壺)という特徴
「ささら」の上の端の専門化された学科がアカデミックな学問の存在形態に。
→ 学者相互の共通のカルチュアで結ばれていない。（日本の近代的組織に共通）
組織における隠語の発生と偏見の沈殿
- 多元的なイメージを合成する志向の重要性
→ 組織内のコトバの沈殿を打破して自主的なコミュニケーションの幅を広げる

参考資料1（YNU21）

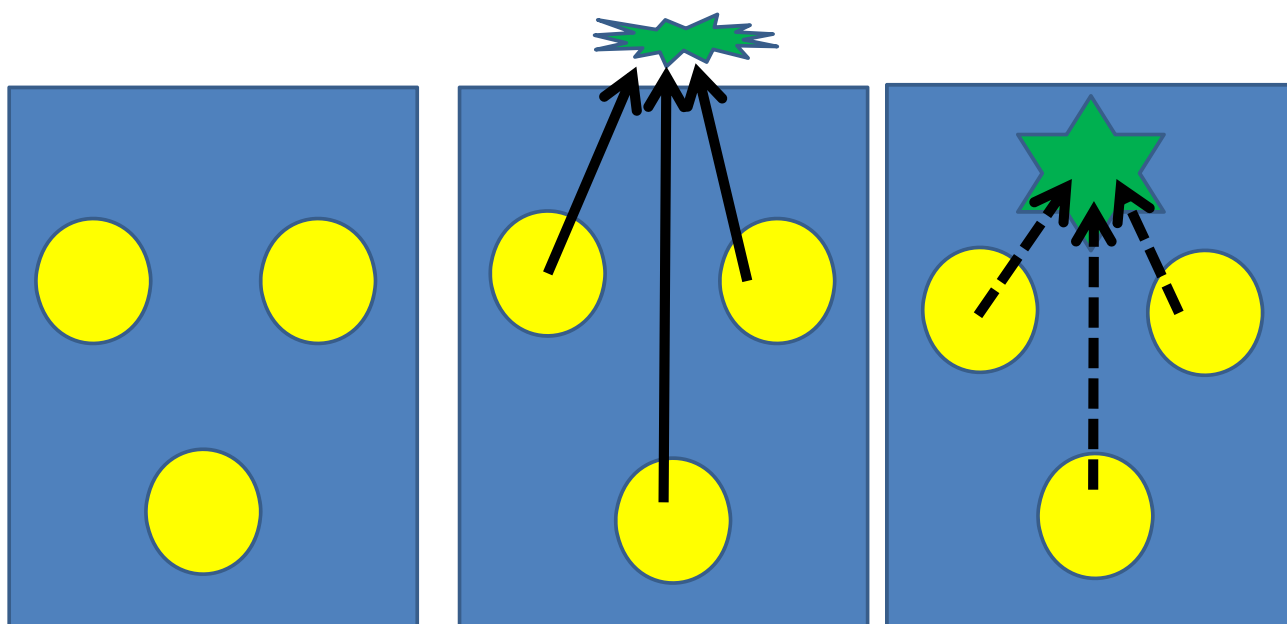
2. 文理融合とは

文理融合の3類型

① 文理併存

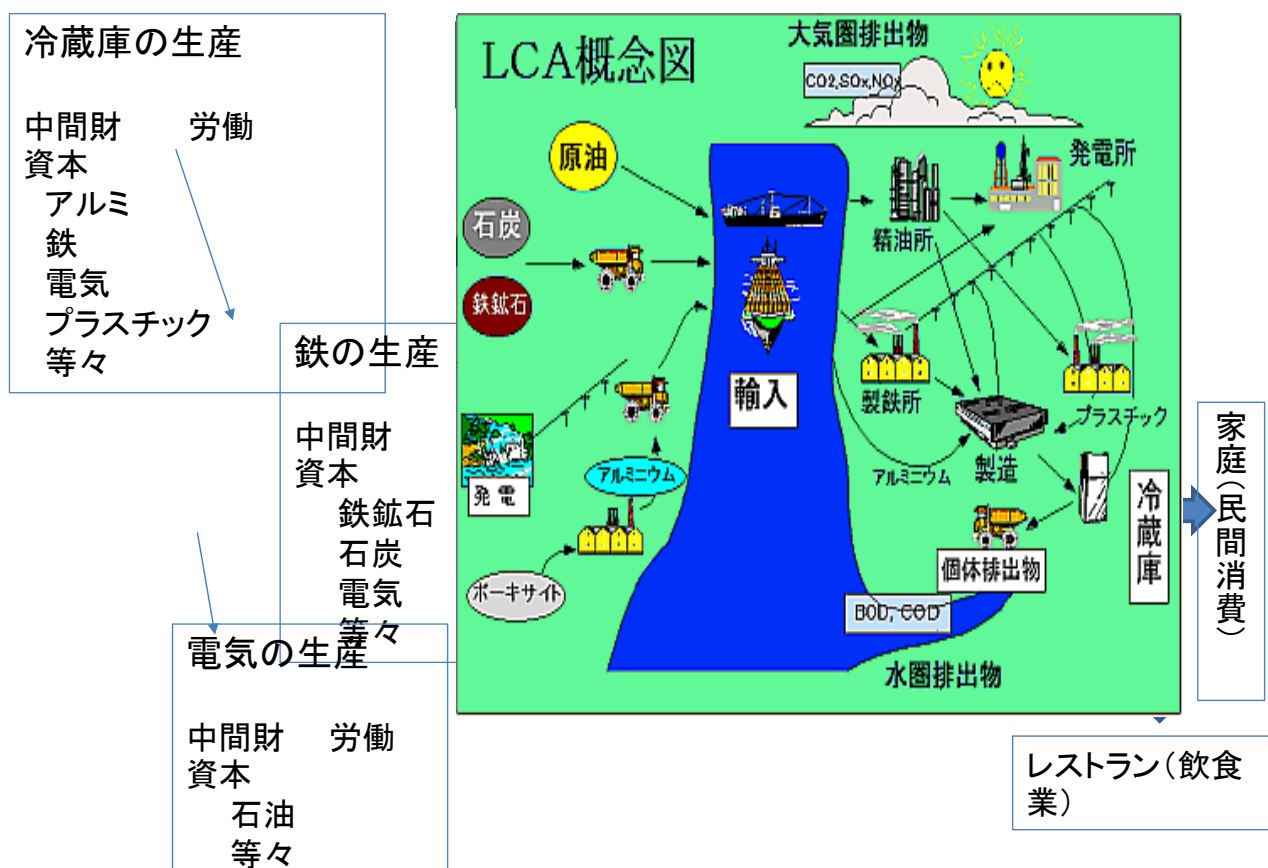
② 文理協働

③ 文理融合



→ 生きた現実の課題に接近する上で、「ささら」の同士の関係性として重要性

3. 経済学者としての経験から ① 産業連関分析

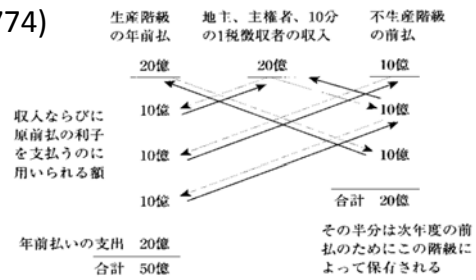


産業連関(投入産出)表の系譜

ケネー経済表 F. Quesnay(1694-1774)



図1-2 経済表の範式
再生産総額50億



マルクス再生産表式 K.Marx (1818-1883)



$$\begin{aligned} \text{I} & 6000 C_1 + 1500 V_1 + 1500 M_1 \\ & = 9000 (X_1) \\ \text{II} & 3000 C_2 + 500 V_2 + 500 M_2 \\ & = 4000 (X_2) \end{aligned}$$

ワルラス一般均衡理論 Léon Walras(1834 - 1910)



$$\begin{aligned} L_d(w, p_1, p_2, \dots, p_n) &= L_s(w, p_1, p_2, \dots, p_n) \\ C_1(w, p_1, p_2, \dots, p_n) &= Q_1(w, p_1, p_2, \dots, p_n) \\ C_2(w, p_1, p_2, \dots, p_n) &= Q_2(w, p_1, p_2, \dots, p_n) \\ &\vdots \\ C_n(w, p_1, p_2, \dots, p_n) &= Q_n(w, p_1, p_2, \dots, p_n) \end{aligned}$$



1923/24年ソ連邦国民経済バランス

表 1.1 物産バランス表

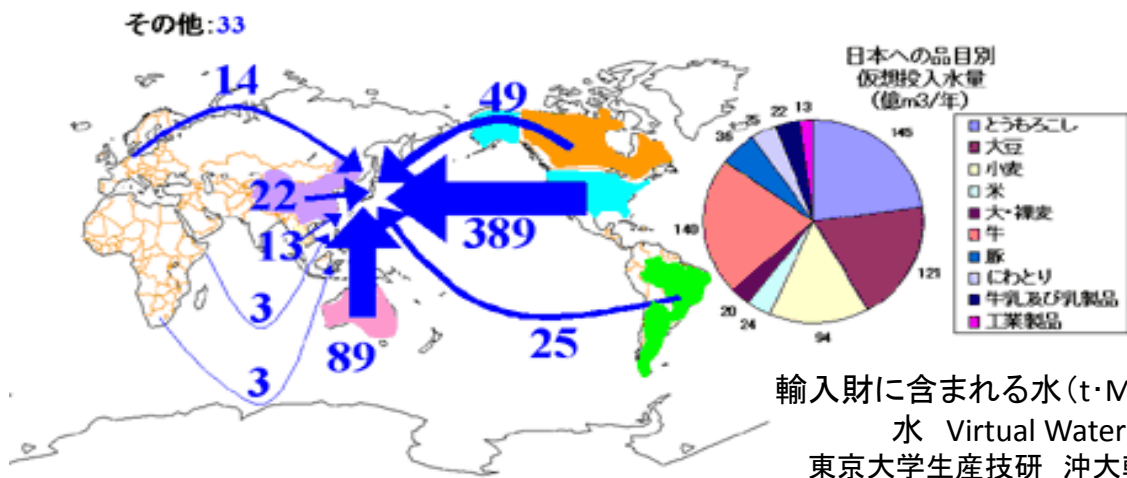
財番号	生産	輸出	輸入	純出	産業1	産業2	...	産業n	最終需要	総計
1	S ₁₁	S ₁₂	S ₁₃	S ₁₄	D ₁₁	D ₁₂	...	D _{1n}	D _{1f}	D ₁
2	S ₂₁	S ₂₂	S ₂₃	S ₂₄	D ₂₁	D ₂₂	...	D _{2n}	D _{2f}	D ₂
...
2000	S ₂₀₀₁	S ₂₀₀₂	S ₂₀₀₃	S ₂₀₀₄	D ₂₀₀₁	D ₂₀₀₂	...	D _{200n}	D _{200f}	D ₂₀₀₀

レオンチェフ産業連関分析 Wassily Leontief(1906 - 1999)

3. 経済学者としての経験

②『プラットフォームで見る神奈川拡大流域圏内の実態と流域圏外との関係』

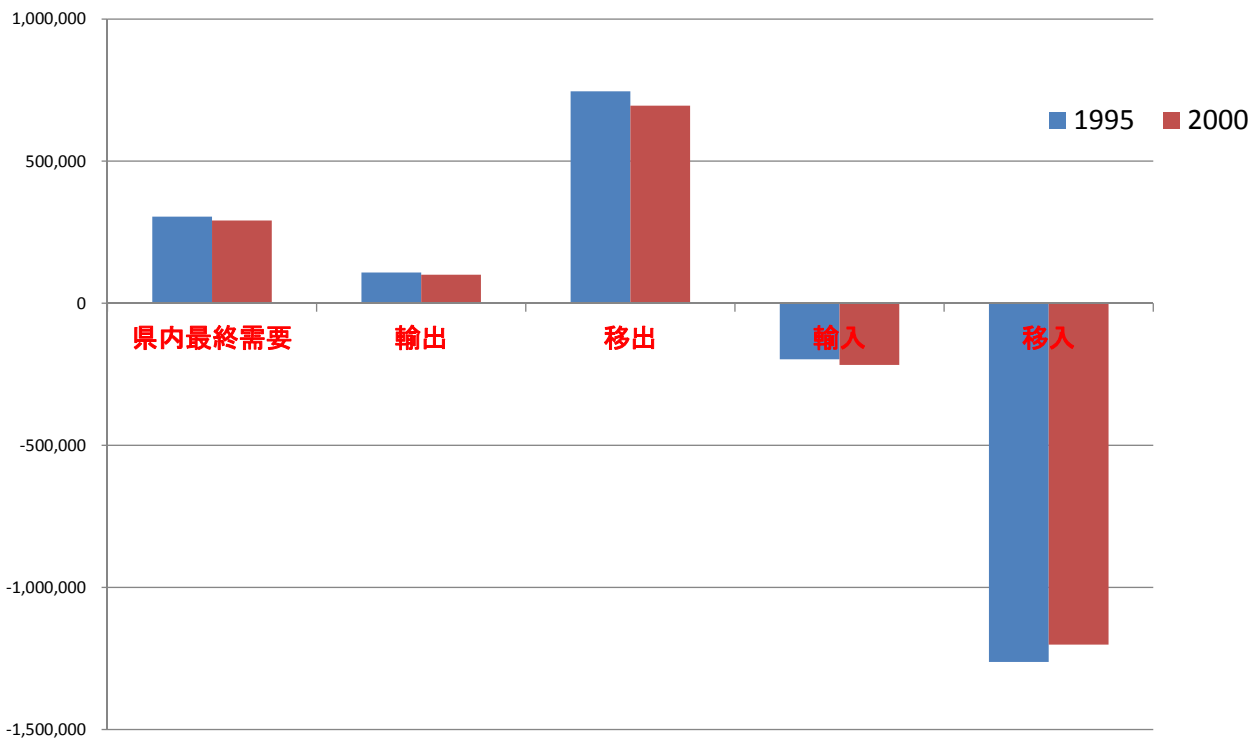
日本の仮想水総輸入量



輸入財に含まれる水(t・M)=仮想水 Virtual Water
東京大学生産技研 沖大幹教授

総輸入量: 640億m³/年 日本国内の年間灌漑用水使用量: 590億m³/年
(日本の単位収量、2000年度に対する食料需給表の統計値より)

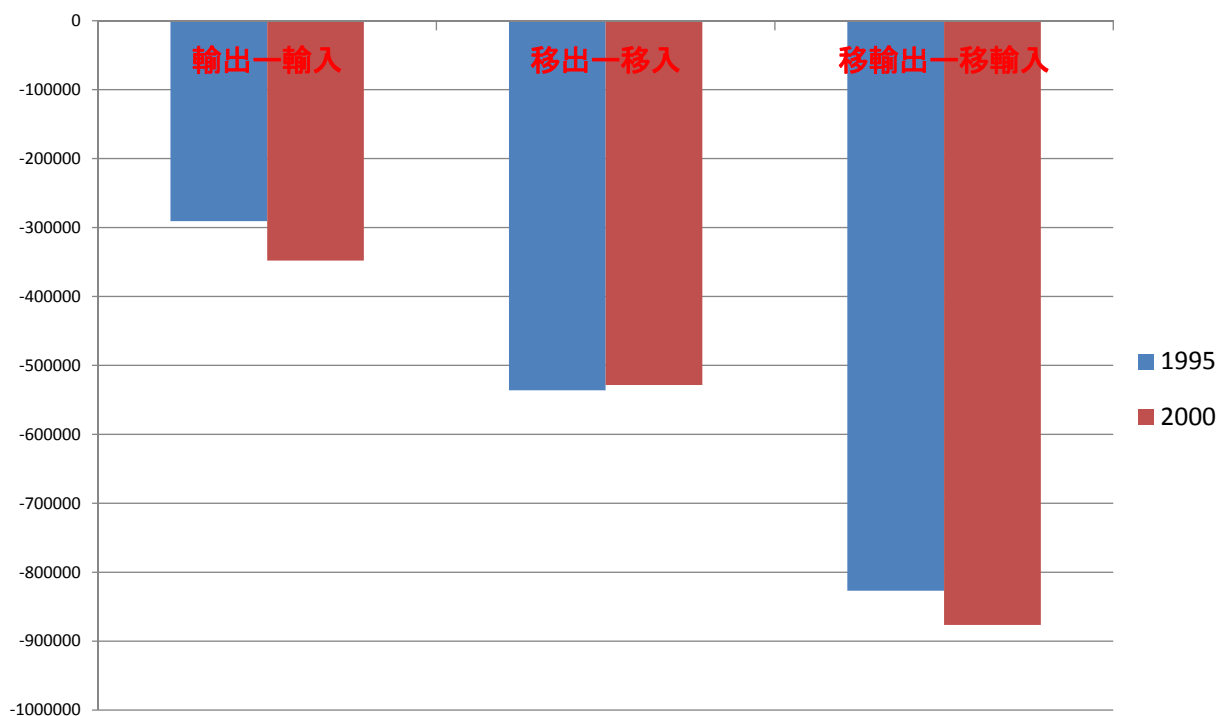
神奈川県の水需要の推移



ニッセイ財団ワークショップ

神奈川県外 水収支の赤字

(輸入財生産 : 補給水 + 回収水)



ニッセイ財団ワークショップ

神奈川地域の水循環の特色

- 1995年の神奈川の水収支は、海外との関係で約1.1億 m^3 の赤字、日本その他の関係では約5.4億 m^3 の赤字、トータルで約6.4億 m^3 の赤字となる。
- 製造業関連の機械工業(電気機械、輸送機械)では多少の黒字。
- 原材料の移輸入が大きい農林水産、食料品産業、対個人サービスでは、大幅な赤字。
- 2000年の水収支は、海外との関係で約1.3億 m^3 の赤字、日本その他の関係では約5.3億 m^3 の赤字、トータルで約6.6億 m^3 の赤字となり、約0.2億 m^3 増加。

神奈川地域の水循環を考える(1)

「平成13年宮ヶ瀬ダムの完成により県内の水需要を概ね賅うために必要な水がめが整い、少なくとも量的な面では、当面、県民の皆様が安心して利用できる状況となっています」「…将来にわたり良質な水を安定的に県民の皆様が利用できるようにする…」(『かながわ水資源環境保全・再生施策大綱』H17年11月、5頁)

【要因】

- ⇒ ①製造業部門での回収率の上昇努力
(全国平均80%弱、神奈川90%前後の回収率)
- ②第2次産業の移転と第3次産業化
- ③一人当たり生活用水の節水努力

神奈川地域の水循環を考える(2)

=>④移輸入の増大に伴う県内水使用の域外移転の増大

「我が国は水の輸入大国である」・・・、バーチャルウォーターで捉えて見ると、日本全体は決して水の豊かな国ではなく、水は貴重な資源である・・・」(『大綱』6頁)

視点の転換の必要性

=>【我が県は水の輸入大県である】

「世界的な視野で考えながら、生活と密着した地域からの取り組みを進めていくことが重要です。」(『大綱』6頁)

- * 他地域、他国への水資源環境の保全再生への支援(環境ODA、国際版水源環境税など)
- * 地産地消(地域内循環の増大)
(県内の水使用は上昇するが、グローバルに見れば水資源使用量【さらには、水汚染、大気汚染、土地面積使用量など】を節約できる可能性)

=> 神奈川における県民生活はグローバルに繋がっており、資源・エネルギーなど持続可能社会への問題意識を持つことが必要。

4. 分野を超えて語り合おう

- 流域圏の共同研究で得たこと。
 - ①異分野(地理、地学、生態、化学など)の先生との意見交換
 - ②持続可能社会への貢献の必要性(SDGs)

- 現代におけるコミュニケーションの重要性
(斎藤純一『政治と複数制』岩波書店、2008年)
カント:多元主義 OR 自己の脱中心化

「世界のすべての側面を見通せる特権的なパースペクティブは誰にも与えられておらず、私のパースペクティブは他者のそれに勝るような特別の重みがあるわけでない。」(『人間学』1798)

ハーバーマス:討議プロセス重視

→ 持続可能性の条件としての社会統合



- 今後語りたいテーマ
IT革命、量子通信・コンピュータ、バイオテクノロジー、資本主義の今後 ...